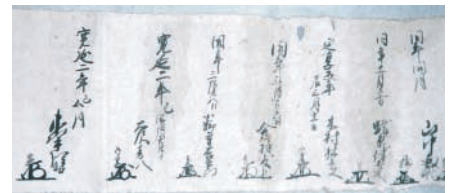
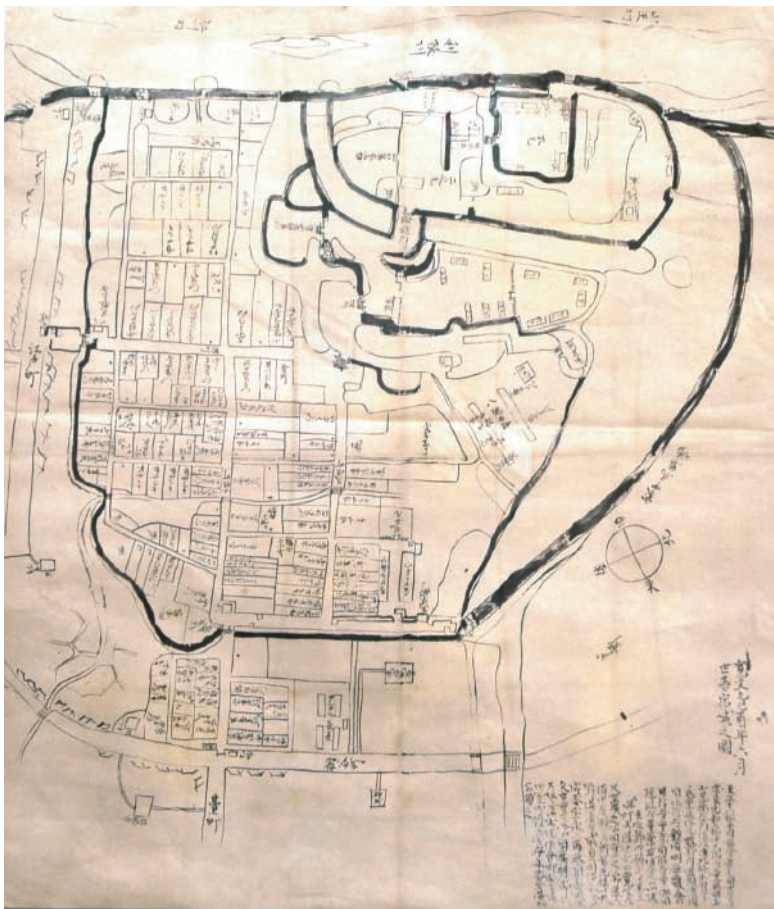


### (3) 関宿藩士

関宿藩の藩士は、城代・中老・家老を筆頭に、およそ 500 人で組織されていました。

藩士の多くは、関宿城内の小姓町や鷹匠町、久保町の武家屋敷に住んでいました。「世喜宿城之図」には 100 余りの屋敷地が示されています。また、江戸の日本橋箱崎(中央区)、深川(江東区)、小日向(文京区)の 3ヶ所に藩邸をもち、およそ 100 人の藩士が「江戸詰」として勤務していました。

後世に名を残した関宿藩士には、「関宿落とし」の開削や大島野地の開発を指揮し、農兵隊も組織した船橋随庵、藩主の命により蝦夷地を探検した成石修輔、幕末の藩内の混乱収束に努力した杉山対軒などがいます。



24. 関宿藩士の花押

25. 世喜宿城之図

江戸後期

城郭や堀、城下町が墨で書かれている。御三階櫓のほかに蔵などの位置も示され、さらに、家臣団屋敷に姓名が注記されているのが特徴である。



26. 御家中指物帖

各藩士の指物をまとめたものである。「卍」や「日の丸」が多いが先端の飾りはそれぞれ独特なデザインが見られる。